

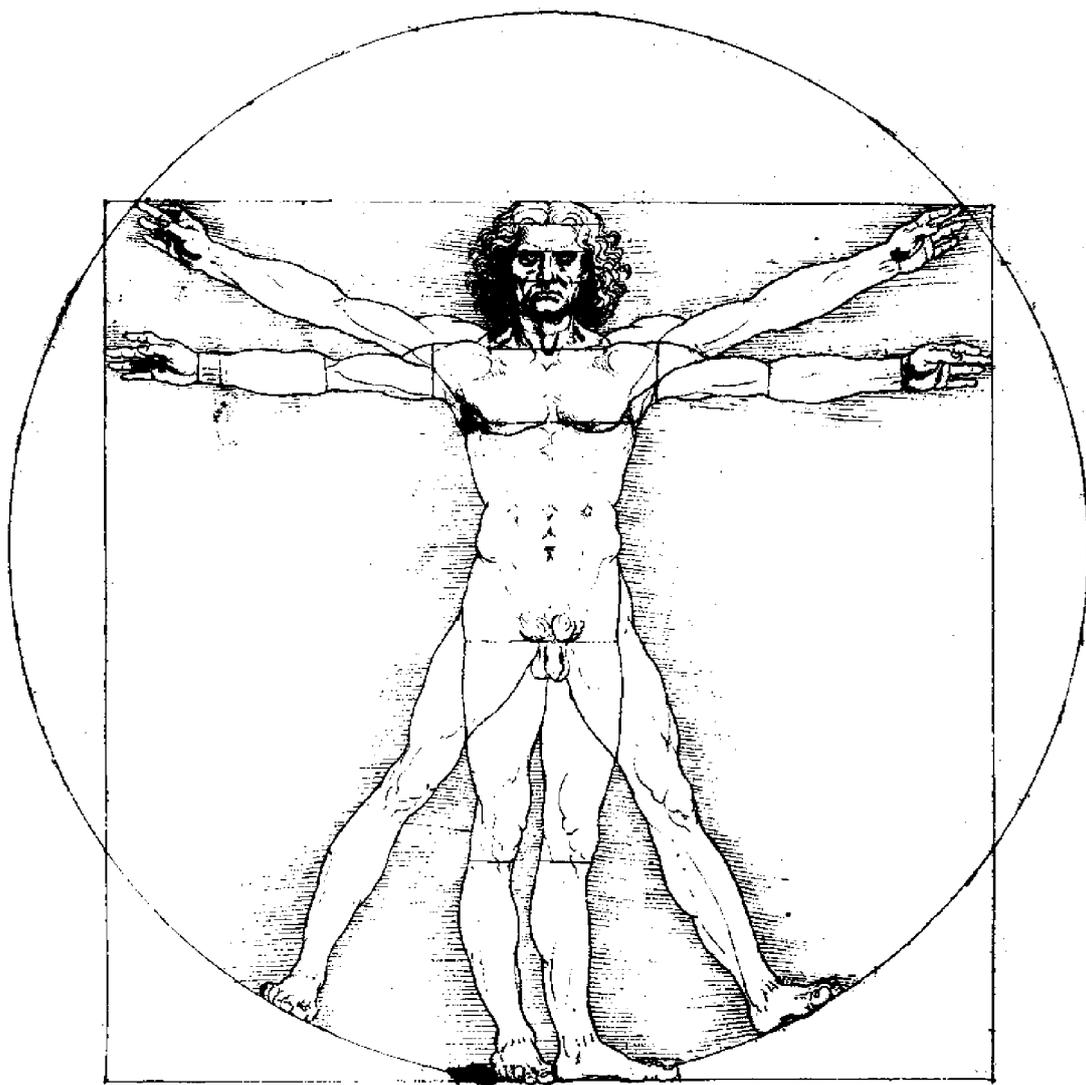
ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.3

No.104



AIシステムをメーカーと共同開発。
先進技術を駆使した内視鏡診療で、
新たな地平を切り拓く。

福井大学医学部附属病院 光学医療診療部
光学医療診療部副部長・准教授

大谷 昌弘

福井の「心臓」を守る！
心臓血管外科医の Passion

福井大学 学術研究院 医学系部門
器官制御医学講座 外科学 (2)
心臓血管外科 教授

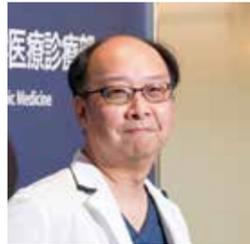
福井 伸哉

患者さん、家族、そして
職員一同の幸せを追求する

福井厚生病院 院長

服部 昌和

CONTENTS



04 **AI システムをメーカーと共同開発。
先進技術を駆使した内視鏡診療で、
新たな地平を切り拓く。**

福井大学医学部附属病院 光学医療診療部
光学医療診療部 副部長・准教授

大谷 昌弘



12 **福井の「心臓」を守る！
心臓血管外科医の情熱**

福井大学 学術研究院 医学系部門 器官制御医学講座 外科学 (2)
心臓血管外科 教授

福井 伸哉



19 **ファイネスの
お聞かせください、ドクター！
DOCTOR'S VOICE**

前川クリニック 副院長

前川 直人



22 **患者さん、家族、そして
職員一同の幸せを追求する**

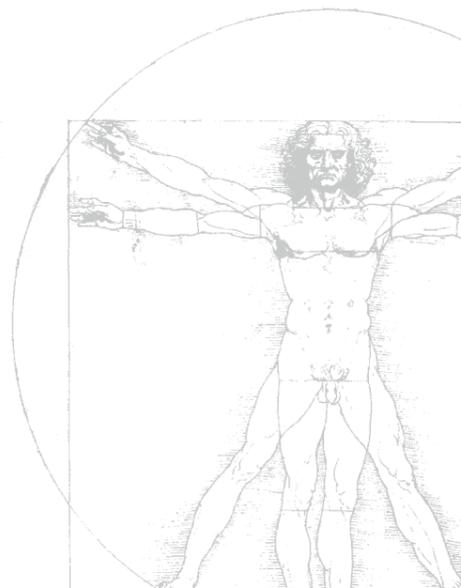
福井厚生病院 院長

服部 昌和

STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能/若井 恵/大廣 涼
Photographer 藤森祐治/中山 健
Designer 吉田真人/西村恭子

発行/NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河南町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail:info@project-ishin.net



「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。

のいちメディカルクリニック様



外観

匠歯科医院様



外観

あいあい歯科クリニック様(テナント改修)



外観



総合内科棟 受付・待合室



受付・待合室



受付・待合室

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に 医業経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での提案営業スタイルを確立し、病医院や福祉施設の開業を支援しています。これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、土地探し、施設提案、事業運営までを専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。多くのドクターが抱かれている開業についての不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと進んでいただけるお手伝いのできるかと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年4月19日(土)・20日(日)
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。
本造建築の新しい選択肢「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合材「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

- 建築コストの削減
- 建築工期の短縮
- 高い耐震性と耐久性
- 建物の軽量化
- 設計自由度の高さ
- 大空間の木造建築

新しい建設サービスの展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社/〒921-8064 金沢市八日市丁11562番地 TEL. 076-240-7000(代) ホームページ/ <https://www.mizuho-co.com>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

● 医療施設

● クリニック

● ドクター

● 薬剤師

● 看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

● 栄養士

● 介護士

● ソーシャルワーカー

● ケアマネジャー

● 民生委員

● 地域の方々

● 在宅高齢者施設

● 民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータセンター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315(代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■ 本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町八6番地1
TEL (076) 268-8311(大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■ 支社 / 東京・名古屋
■ 支店 / 大阪
■ 営業所 / 富山・福井

AIシステムをメーカーと共同開発。 先進技術を駆使した内視鏡診療で、 新たな地平を切り拓く。

「医療DX」が注目を集めるなど、医療の現場では技術の発展が目覚ましい。

なかでも、飛躍的に革新が進む領域が、内視鏡をはじめとした「光学医療」と言えるだろう。

福井大学医学部附属病院光学医療診療部では、技術の研鑽に努めるとともに、

先進的な機器を活用し、消化器系や呼吸器系を中心とした診療に全力を注いでいる。



福井大学医学部附属病院 光学医療診療部

光学医療診療部副部長・准教授

大谷 昌弘

診療件数は10年で倍増
年間5500件超に

体への負担が小さい低侵襲医療が求められるなか、消化器内視鏡や気管支内視鏡による診療が果たす役割は拡大し続けている。福井大学医学部附属病院光学医療診療部の診療件数は年間で5500件を超えており、この10年間で倍増したという。

件数が増えた背景には、ニーズの高まりとともに、光学医療診療部が積み重ねてきたノウハウと、先進的な内視鏡をはじめとした積極的な設備の更新が深く関わっている。周囲から寄せられる期待値も極めて大きい。県内の基幹病院からも難度の高い診療を依頼されるケースが増え、県内全域はもちろん、福井県外から最新の内視鏡治療を求めて足を運ぶ患者も少なくない。

福井大学医学部附属病院に光学医療診療部が立ち上がったのは、平成10（1998）年のことだ。これまで各診療科で担っていた内視鏡診療を1カ所に集約することで、光学医療機器の管理やメンテナンスを一元化するのが目的の一つだ。合わせて、光学医療診療部が核となって技術の研鑽に努め、診療の安定化





を図る狙いもあった。そのため、消化器系や呼吸器系から専門医が集まっており、現在は部長の中本安成教授を含めて3人の医師が在籍。加えて、放射線部と兼任する看護師、機器の保守・管理を担う臨床工学技士、機器の洗浄を行う専任スタッフで構成されている。

診療スペースは外来棟1階にあり、内視鏡室は上部消化管（食道・胃・十二指腸）用3室、下部消化管（大腸・直腸）用2室、呼吸器系の診療も可能なX線TV撮影室1室の合計6室。ゆったりとした広さを確保した明るい空間で、リラックスしながら診療を受けることができる。

多彩な先進機器を用意 疾患に応じて使い分け

「光学医療診療部の強みの一つと言えるのが、多種多様な高性能内視鏡をそろえている点です。メーカーを限定することなく、食道や小腸、胆道など、さまざまな領域を診るのに最適な機器をそろえ、患者さんの疾患に応じて使い分けています」

こう教えてくれたのは、消化器内科医として内視鏡診療の最前線に立つ光学医療診療部副部長の大谷昌弘准教授だ。たとえば、福井大学医学部附属病院が誇る

内視鏡の一つに、「内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）」がある。これは大谷准教授の専門分野である胆膵領域を探る内視鏡で、カメラを口から入れ、十二指腸まで進めた後で、そこからより細かいチューブを通して造影剤を注入する。内視鏡からさらに小型の内視鏡が延びることで、狭小な胆管や膵管の隅々まで診療できるすぐれもの。MRIやCT、腹部エコーなどで疑われる病変箇所の組織を直接採取することができ、より確実に精密な診断を行える。光学医療診療部では、このERCPや超音波内視鏡を活用した検査を推し進めており、胆膵領域の診療件数だけでも年間800件を超えている。

また、最新技術の導入にも意欲的だ。2020年代に入ってスタートさせたのがAIによる診療支援システムだ。大腸内視鏡を行う際、AIが画像を通してポリープなどを自動で認識する。さらに、大手医療機器メーカーと福井大学医学部が共同研究・開発に取り組んで、AIを用いたレポート作成支援システムも導入している。

「従来は、内視鏡を動かしながら医師がポリープの発見箇所と大きさを声に出し、看護師がそれをメモしていました。そして、検査後にレポートとしてまとめたのですが、これがなかなか時間のかかる作業でした。いまは違います。医師の音声でAIが認識して、レポートのひな型を自動的に生成してくれます」

大谷准教授はこう話し、医師・看護師ともに事務作業が大幅に効率化できたそう、目の前の患者により集中できる環境が整っている。

院内の内視鏡を一括管理 チームで光学診療を支える

並行して、光学医療診療部が、院内で扱う内視鏡の管理やメンテナンスを一括して担うことでのメリットも大きい。内視鏡の高性能・高精密度に伴い、カメラ部分や少しぶついただけでも故障するケースがあるそうで、数年前までは高額な修理費の負担軽減が課題の一つに挙げられていたという。そこで、光学医療診療部の臨床工学技士が先頭に立って、機器の扱い方について各科にアドバイスをしたり、先端部分に保護用のカバーを装着したりするなどの取り組みを推進。日々の積み重ねで、修理費を3分の1にまで減らすことに成功したそうだ。

金銭面の効果だけではない。管理・メ

ンテナンスの一元化は安全な内視鏡診療にも直結している。

「内視鏡は消化器系や呼吸器系だけでなく、泌尿器科や耳鼻咽喉科などでも利用しています。院内で使う内視鏡をまとめて、光学医療診療部の熟練したスタッフが洗浄や修理を請け負うことで、病院内の診療の安定的な運用につながります」

大谷准教授がこう指摘するように、光学医療診療部を支えているのは医師だけではない。看護師や臨床工学技士も含まれた多職種連携によるチーム医療こそ、大きな強みだ。部内では、各スタッフが集まった多職種ミーティングを毎日開いており、内視鏡のメンテナンス状況の確認など、現場レベルでの綿密な打ち合わせを欠かさない。診療機器や疾患に関する理解を深め、より適切な診療ができるように日々、レベルアップに努めている。

また、ミーティング時に確認するスケジュール管理も重要だ。光学医療診療部は、単純計算で1日あたりの内視鏡診療件数は20件以上となり、効率的な運用は外せない命題と言える。とはいえ、高難度の診療になると、どうしても検査・治療時間は長引いてしまう。そのため、件数が多い日は、通常は午後からの内視鏡

「オカレンス」を調査し、
安全性の追求に注力

くなることが分かっています。大谷准教授は超音波内視鏡で硬度を測定し、危険度を評価する研究に取り組んでいる。沈黙の臓器と言われる膵臓に生じるがんは症状に気づきにくく、見つかったときには進行しているケースが少なくない。膵臓がんの早期発見は罹患後の生存率を高めるためには欠かせないポイントであり、大谷准教授は評価手法の確立に情熱を傾けている。

一方で、臨床の現場では、柔和な表情で患者と丁寧に向き合うことに心を砕く。「大病院は、地域医療の最後のとりです。ほかの医療機関では診療が難しく、希望を託して訪れる患者さんも少なくありません。不安な気持ちに寄り添えるよう、疾患のこと、これからの治療法のことなど、詳細に説明することを心がけています」

治療効果を高めるためにも、医師と患者の思いが合致することは不可欠だ。大谷准教授は、インフォームドコンセントに重点を置き、難治性の疾患とともに歩んでいくことを大切にしている。

超音波内視鏡を駆使し
膵臓がんの早期発見を

診療を前倒して午前中から組み入れたり、時間のかかりそうな検査・治療は1日の後半に割り振ったりと、スタッフ一丸となつて的確なマネジメントを推進。長時間勤務を抑制し、誰もが働きやすい環境をつくることで、スタッフ一人ひとりが持てる力を存分に発揮できるように知恵を絞っている。

そんな光学医療診療部の歩みを、中本教授とともに支えてきたのが、今回、話をうかがった大谷准教授だ。大谷准教授は福井医科大学（現福井大学医学部）を卒業し、同大学附属病院第二内科（消化器内科）に入局。その後、JR大阪鉄道病院で研修医として腕を磨き、アメリカのマサチューセッツ工科大学（MIT）で2年間にわたって胃がんについて研究を深めた後、福井大学医学部附属病院に戻り、診療と研究に力を注いできた。

現在、研究テーマとして探っているのが、「膵管内乳頭粘液性腫瘍」である。これは膵内に液体を貯めた袋状の腫瘍で、膵臓がんのリスク因子の一つとされている。この腫瘍は緩徐に進行し、膵臓が硬

大谷准教授は、胆膵領域における内視鏡診療のスペシャリストであるとともに、医療安全管理部副部長としての顔も持つ。医療安全管理部は、事故ゼロをめざして安心・安全な医療を推進する司令塔で、院内で発生した予期せぬ事象「オカレンス」を幅広く収集し、調査・分析している。

「光学医療診療部のこれからの思い描くときも、第一に掲げたいのが『安全性』の確保です」

大谷准教授はこう断言し、後進に向けて「若手の医師には、当然、手技を高めることに邁進していったほしい。と同時に、安全の意識もしっかりと高めていってほしいと願っています。機器の性能が格段に高まり、従来は難しかった治療にも内視鏡で挑むことができるようになっていきます。だからこそ、より安全に留意する必要があります。攻めすぎた結果、内視鏡で胆管や膵管を傷つけると、その修復は非常に難しい。万一、合併症を引き起こしたら、患者さんへの身体的な負担だけでなく、担当したドクターにとっても精神的なダメージが大きくなってしまいます」

そんな思いを胸に、大谷准教授は光学



14

光学医療診療部
Endoscopic Medicine



医療診療部として各診療科と連携を深めながら、人材教育にも熱心に取り組んでいる。そして、技術の研鑽と安全管理を両輪に進んでいく先に見据えるのは、福井大学医学部附属病院のめざす理念の実現だ。

最新・最適な医療を安心と信頼の下で。現在地に決して慢心することなく、光学医療診療部は診療技術と安全性の確立の両面でもより高みをめざしていく。これからも内視鏡診療の新たな地平を果敢に切り拓いていく考えだ。

大谷 昌弘 Ohtani Masahiro

福井大学医学部附属病院 光学医療診療部
光学医療診療部副部長・准教授

【略歴】
1996年 福井医科大学医学部医学科卒業
1996年 福井医科大学 内科学(2)分野 研修医
1998年 JR大阪鉄道病院 消化器内科レジデント
2003年 福井医科大学大学院修了
2004年 マサチューセッツ工科大学 客員研究員
2006年 福井大学医学部 内科学(2)分野 助教
2016年 福井大学医学部 内科学(2)分野 講師
2022年 福井大学附属病院 光学医療診療部 准教授

ドラッグストア併設で 理想の開業を!

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
 開業までのスケジュール作成
 開業地の選定、診療圏分析
 事業計画の策定
 融資の打診及び交渉
 設計、内装業者紹介及びアドバイス
 医療機器選定
 税理士、公認会計士の紹介
 広告相談
 従業員募集、採用、教育の補助
 開設手続き
 開業後の経営支援、拡大展開
 継承支援



DCPソリューションは
 豊富な経験とネットワークを持つ
 先生方のよきパートナーとして
 開業支援サービスを提供しています。

開業の事例や先生方の声をご覧ください



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号 ヒルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号 新大阪第5ドビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>



福井の「心臓」を守る！ 心臓血管外科医の パッション

2022年7月、福井大学医学部附属病院に着任以来、福井伸哉教授は地域における心臓血管外科医療の質とマンパワーの向上に力を注いでいる。

ハードな心臓血管外科を志す若手医師の増加に加え、地域の基幹病院との連携を深め、緊急性の高い患者を県外に流出させない。

福井に残って一流の心臓血管外科医として活躍する、人材育成の一端に迫った。

Surgeon's
Sperspective

手術や症例数を倍増

兵庫県尼崎市。県の南東部に位置し、人口45万人を数えるこのまちには、急性期の総合病院や公立病院、専門病院、クリニックなどが集中する。大学病院がある神戸市や大阪市にも近く、患者にとっては受けたい医療が身近に受けられる環境にある。

福井伸哉教授は、福井大学医学部附属病院に就任する以前、尼崎市内のある総合病院に勤務していた。その病院は、がんの拠点病院ではあったものの、循環器系の疾患は近隣の同規模病院に比べて手術件数や症例数が少なく、専門性の高い治療が必要な患者は、近隣の大きな病院に流れていた。その病院の「心臓血管外科を立て直してほしい」と大阪大学から派遣された。着任1年目から2年目にかけて、福井医師はみるみる患者数を増やし、手術件数や症例数をあっという間に倍増させた。

「世の中がコロナ禍の頃で、ステイホームで家にいる時間が長くなり、Web利用が進んだんですね。着任してすぐネットによる市民講座とか、開業医の先生向けの講演とか、製薬会社さんを通じてこまめに発信したんです。救急隊に24時間患者さんを受け入れるとプレゼンしたり。当たり前のことをしたのですが、ある時から開業医

ら長く維持されていて、その関係は容易には崩れません。患者さんはネットなどの情報より、かかりつけ医の紹介で病院を選ぶケースが多いので、福井の北部にある当院は市内の病院より地理的に不利です。それもあって、私の専門である心臓血管外科に関しては、市内にある医療施設と連携して、福井県内で心臓血管外科医療を完結できるようにしようと考えました」

冠動脈疾患や大動脈弁狭窄症、低侵襲膈帽弁手術など心臓血管系の大きな手術が行える医療機関は、県内では福井循環器病院、福井県立病院、福井大学医学部附属病院の3施設しかない。それゆえ、3つの病院が患者を取り合うのではなく、むしろ連携を深め、緊急患者などを県外に流失させないことが重要だと判断した。

「幸い福井循環器病院は、私の出身大学である大阪大学からの医師派遣に頼っています。県立病院は同じく金沢大学から派遣されており、2つの病院はそれぞれの大学からの医師派遣が難しくなると、将来的に診療科が維持できなくなる可能性がある。そうならないように、大学病院として福井県内に残る心臓血管外科医を一人でも多く育て、供給できる体制をつくる。それが私の使命だと考え、入局者を増やすことに方向転換したのです」

さんからの紹介が増え、病院のホームページを見た市民の皆さんが気軽に足を運んでくださるようになったんです。医療の競争が激しいところですから、かかりつけ医に相談したり、より良い医療を受けることに患者さん自身が前向きなんです。市民の健康意識が高いのもあって、患者さんや手術件数の増加につながったのだと思います」

心臓血管外科医療を完結

着任にあたって、福井教授は「心臓血管外科の手術件数を増やし、県内の心臓血管外科医療を安定させ、一流の外科医を育て上げる」ことを自らのミッションに掲げた。前任地での成功体験をもとに、Webで市民公開講座や開業医への情報発信などをこまめに行い、循環器系の患者数と手術症例数を増やすことに情熱を傾ける。

ところが1年が経ち、2年が経過しても、



医学生に外科の魅力を発信

外科志望の医師が少なくなっている今、福井県内で一流の心臓血管外科医を育て上げるのは容易なことではない。福井教授が着任した当時、「医局員は47歳が最低年齢で、入局者も少なかった」。そのため福井教授は、入局者を一人でも多く増やすために「まず医学部の学生たちに外科医や手術の面白さを感じてもらおう」ことから取り組んだ。

学生指導、手術指導、wet labo、ポリクリ（4年生から6年生の間に往く臨床

患者数は多少増えても、思ったほどの成果に繋がらない。何が違うのか？着任から2年半余りが経過したころ、福井教授は一つの結論と方向性を導き出す。

「尼崎と大きく違ったのは、地域事情と県民性です。福井県は市内にある基幹病院と地域の病院やクリニックとの連携が昔か



（実習）中の患者診察の直接指導。できるだけ学生たち一人ひとりに声をかけ、顔や名前を覚え、出身はどこで、将来はどんな道に進みたいかなどコミュニケーションをとるようにした。医学生たちとの距離を縮め、外科や手術に対して興味や魅力を感じてもらおう。医局内においても、心臓外科と末梢血管外科を棲み分けし、お互い協力しながら運営するようにした。結果、レジデント（研修医）が2名入局し、最低年齢も26歳と若返った。

「入局後は、県立病院、福井循環器病院をローテーションすることで様々な術式、症例数を経験してもらいたいと考えています。心臓血管外科疾患に関しては、福井市内は福井循環器病院と県立病院、三国、芦原、越前、敦賀は、当院に患者さんが搬送される体制をとっています。嶺南地域には、越前市の中村病院を大学の新たな関連病院にしました。ここでは、現在心臓血管外科の医局員が1名常勤しており、末梢血管の専門病院として透析シャント、静脈瘤の手術などを行っています」

体力と技と現場主義

もともとエンジニアになるのが夢だった福井教授は、「東大理一か京大工学部電気

病院が患者を取り合うのではなく、連携を深めることが重要。
福井県内の心臓血管外科医を一人でも多く育て、
供給体制をつくることが私の使命。



電子工学科に入ってから将来はソニーがパナソニックに就職する」道を考えていた。しかし高校3年生の夏休み、祖父が亡くなる直前に入院していた病院の担当医が高校の先輩だった。その人から「祖父が、孫も医師になるといつか」と聞かされたのが縁で、医師の道を志す。

大阪大学附属病院の研修医時代には、「365日のうち340日は病院に泊まっていた」ほど、伝説の心臓外科医として極めてハードな日々を送った。日本初の脳死心臓移植の手術が行われた時に主治医に指名されるなど、数多くの経験と実績を積んだ人でもある。その福井教授が、心臓血管外科を選んだ理由をこう打ち明ける。

「心臓は固定臓器で、その場所から動かさず。外科医が手術しやすいように一旦、体の外に出したりできないからこそ高い技術が求められる。患者さんが元気になるかどうかは、術後管理を含めて外科医の手術にかかる比重が非常に大きい。心臓の

機能をきちんと制御できるかどうか、すべては外科医の特技でまわるのです」

安全、安心な手術に命をかけ、とことん技術を磨く。同時に、長時間の手術を乗り越える体力と集中力も求められる。医師の働き方改革が叫ばれ、過重労働が見直される中、福井教授は、これからの若い人たちにどんなことを期待するか？

「今の人たちはスマートで優秀で、身なりもきちんとしていて我々の若いころとは全然違います。それは仕方ないですが、心臓血管外科医はある意味、体力勝負。仕事を淡々とこなすだけでは医学生に興味をもってもらえません。手術はもちろん、術後もICUに行き、ベッドサイドに足を運び、モニターの数字やデータに異変があれば、患者さんの手足や体に触れて、話しかけてみる。数字やデータだけを鵜呑みにして原因を探ろうとしても、根本的な問題には近づけません。何が起きて、なぜそうなったのか。本当の原因は、患者さんに触れて、会話して、様子や情報を探ってみないことには辿り着けない。これからの人たちには是非、挑戦欲や競争意識を身につけてほしいと思います」

福井の心臓を守る。一流の心臓血管外科医を育成する福井教授の挑戦は、まだ始まったばかりである。

福井県医療情報誌「neo」4号より記事転用



福井 伸哉

Fukui Shinga

福井大学 学術研究院 医学系部門
器官制御医学講座 外科学 (2)
心臓血管外科 教授

[略歴]

1998年 大阪大学医学部医学科卒業 大阪大学第一外科研修医
1999年 大阪警察病院 外科
2001年 桜橋渡辺病院 心臓血管外科
2003年 大阪大学医学部附属病院 心臓血管外科
2004年 大阪大学大学院医学系研究科 未来医療開発 博士課程
2007年 兵庫医科大学 心臓血管外科 助教
2016年 大阪急性期総合医療センター 心臓血管外科 副部長
2020年 関西労災病院 心臓血管外科 部長
2022年 現職

富山県富山市石坂

前川クリニック

内科・小児科・呼吸器科・循環器内科



前川 直人 副院長

【略歴】

- 2004年 金沢医科大学医学部入学
- 2006年 富山病理診断センターで研修
- 2007年 Fletcher Allen Hospital病理学研修
- 2009年 St Joseph Hospital心臓血管外科留学
- 2010年 金沢医科大学医学部卒業
- 2011年 富山赤十字病院臨床研修
研修終了後、複数の金沢大学関連病院で
循環器内科医として勤務
- 2021年 金沢医科大学水見市民病院循環器内科助教
- 2022年 同病院循環器内科講師
- 2023年 前川クリニック副院長に就任

赤ちゃんから高齢者まで、 受診しやすい病院



地域に根差した 患者さん思いの町医者となる

呼吸器内科が専門の前川裕院長に、2023年9月からは循環器内科を専門とする前川直人副院長が加わった前川クリニック。開業したのは副院長の祖父で、その時期ははっきりしないがおそらく昭和30（1955）年ごろではないかという。赤ちゃんからお年寄りまで、幅広く診るのが特色で、また、現在はいえ予約制をとっておらず、症状があつたらすぐに来てほしいというスタンスだ。

「町医者だからできることといえば、とにかく受診のハードルを低くすることだと思います。発熱で受診される患者さんに対しても、受診時間を限定していません。時間を決めてしまうと、待っている間に症状が悪化してしまうこともあり、とくに心臓の病気があつたりすると、感染症をきっかけに病気が悪化することもありえます。なるべく早く受診してもらおうことをおすすめています」と話す前川副院長。大学時代には病理にのめり込んで、アメリカの病院で研修をしたり、テレビドラマに影響を受けアメリカに心臓血管外科の短期留学をしたりと、あく

健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



[本社/金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

周囲の人と力を合わせて 救命第一を貫いていく

地域に根差したクリニックとして、他の病院との連携にも力を入れている。近所のクリニック同士は交流が盛んで、専門の先生に診てもらった方がいいと感じたら、すぐに紹介している。また、開放病床に力を入れていく病院への紹介も多いという。

「患者さんがかかりつけの医者の顔を見れば安心します。開放病床はとてもいいシステムです」

昨年の能登半島地震で、日本医師会災害医療チーム（JMAT）の一員として能登半島で活動した副院長は、「災害医療を経験して原点回帰させられた」と言い、改めて「救命第一」をモットーに掲げるようになったそうだ。

実は副院長がこのクリニックに来てからのわずか1年半余りの間に、院内で3人の患者さんの呼吸や心臓が止まることを経験している。

「救命には患者さんも含めた周りの人の協力が大事だと思います。そして医者は無力だということを実感しました。1つのチームとなって、これからはずっと救命第一をモットーにしていきます」と、人懐っこい笑顔を見せる副院長。

3代・70年にも渡り、地域から愛され続ける秘訣は、副院長の表情や言葉の端々からも抱く、代々受け継がれたであろう、親しみやすさと頼もしさに違いない。



購入から15年以内で このような 医療機器 はございませんか?

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。

時代をつなぎ、人と人をつなぐ仕事

Y&E 山岸建築設計事務所
Yamagishi Architects + Engineers



弊社が買取りいたします。

各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください



患者さん、家族、そして
職員一同の幸せを追求する

福井厚生病院 院長 服部昌和





おしゃやれで親しみやすい イメージを刷新した新病院

福井市の医療圏をJR北陸本線（現ハビラインふくい線）と足羽川を境にして四分割してみると、南東の部分には大きな病院が存在しなかった。1983年にそのエリアに開設されたのが医療法人厚生会福井厚生病院だ。

創業の精神は「地域にやさしい病院」。病院にとどまらず、健診、介護、福祉など、さまざまなところからやさしさを実現しようと、開院当初は夜9時ごろまで診察を行ったり、1992年には県内でいち早く「訪問看護ステーション」の立ち上げ、開院10年目には「ストレスケアセンター」（精神科）も開設した。その後、福井市からの依頼で「地域包括支援センター」を受託、サービス付き高齢者住宅の開設など、時代の要請に応じて、病院以外のさまざまな医療サービスにも力を入れ、現在では17の施設がある。

2022年5月には新病院が稼働。一度見たら忘れられない、特徴のある外観は、雪のぼんぼりのやさしい感じをイメージして設計されているそう。外観だけでなく、自然光を取り入れるなど、明るい館内も「病院」のイメージ

を大きく変えている。

”人”と”仕組み”により 強みを発揮できる病院

病院の「やさしさ」を具現化しているわかりやすい例の一つとして、独自の巡回バスの運行や透析患者の送迎サービスがある。

「免許返納で病院へ来るのが大変な高齢の透析患者もいます。そんな方のために当院では送り迎えをしています。高度急性期病院ではなかなか行き届かないところまで配慮しつつ、『やさしさを出していきたい』とするのが、病院全職員のモットーです。車も人も準備をしなければなりません。地域を守り、貢献してきたという自負から頑張っています」と、2022年4月に就任した服部昌和院長はにこやかに話す。

さらに、さまざまな疾患に対応できるように診療科を増やしたり、多疾患併存の高齢の患者にコンパクトに、しかも高いレベルで対応できる体制づくりにも余念がない。

「当院には21の標榜科目があります。心臓カテーテルアブレーション治療で県内トップクラスの実績がある循環器内科や、骨折した高齢患者に対して急性期手術やリハビリ、療養という長い目で対応し、理学療法士を増やしてリハビリにも力を入れている整形外科、精神科では最近増えている適応障害も積極的に受け入れ、リワーク（就労支援）までを院内のチームが行っています。病院がリワークまでやっているところはそうはないと思います。このように幾つも柱を持っていますが、それを支えてくれているのは人です。さらに、2本、3本と治療や医療サービスの柱が出る仕組みを持っているのが当院の強みだと思います」

そんなコロナ禍で、院長自身が一番感じたことは、職員のポテンシャルの高さだった。確保病床の看護には立候補で入ってもらったそうだが、多くの人が手を挙げてくれた。

「今こそCOVID-19って病態がわかっていますが、最初の頃は得体が知れなくて、どういう状況かわからない中で、日夜交代で献身的にしてくれたことに対して、職員の皆さんに大変感謝していますし、誇りに思っています」

混乱する中でも、病院としての決定事項をスムーズに伝えるための仕組みができたことなど、「コロナによって、

守備範囲を広げて、 地域から頼られる存在に

高齢の患者が増えてくると、多疾患併存のため、外科手術で悪いところを取ったら終わりとはいけなくなる。守備範囲をさらに広げ、それらをつなげていくことが、これからのこの病院が目指す姿となる。そのような連携によって、高度急性期病院や中小の病院、診療所、

性期の手術やリハビリ、療養という長い目で対応し、理学療法士を増やしてリハビリにも力を入れている整形外科、精神科では最近増えている適応障害も積極的に受け入れ、リワーク（就労支援）までを院内のチームが行っています。病院がリワークまでやっているところはそうはないと思います。このように幾つも柱を持っていますが、それを支えてくれているのは人です。さらに、2本、3本と治療や医療サービスの柱が出る仕組みを持っているのが当院の強みだと思います」



服部 昌和 (はっとり まさかず)
福井厚生病院 院長

1985年 福井県立病院 研修医
1987年 国保名田庄診療所 所長
1989年 福井県立病院 外科 医員
1990年 福井県立成人病センター若狭分院 外科 副医長
公立小浜病院 外科 医員
1993年 福井県立病院 外科 医長
1994年 市立敦賀病院 外科 医長
2000年 福井県立病院 外科 医長
2010年 福井県立病院 外科 主任医長
2011年 福井県立病院 医局長(～2015年03月)
2017年 福井県立病院 健康診断センター長
2019年 福井県30年勤続職員表彰
2022年 医療法人厚生会 福井厚生病院入職 院長就任
現在に至る

いろいろなことに気づくことができたのも事実で、今後にも大いに生かします」と振り返る。

人を診ることの大切さを 教えてくれた名田庄での経験

自治医科大学を卒業した服部院長は、卒業して3年目に医師一人だけの名田庄診療所(福井県大飯郡おおい町)に2年間赴任した。

「2年間しっかり初期研修を受けましたが、1人では十分な診療ができるような状態ではなく、わからないことだらけで、とにかく不安しかありませんでした。それでも地域の人たちにとってもあたたかく迎え入れてもらい、あの村で医療との向き合い方を学ばせてもらいました。私の医療の原点で、今でもつらいことやうまくいかないことがあります。フラツと名田庄を訪ねることがあります。行けば当時のことが鮮明によみがえり、原点復帰できます」

自身の経験から導き出された、「若いうちはそういった経験をするといい」、「総合診療はもっとやるべき、などといった持論は、機会があるたびに、若い人たちにも伝えるようにしているという。「大学では、心臓、消化器などと臓器

ごとの縦割りの教育しか受けていませんが、実際は複数の疾患を持った高齢の患者が多く、プライマリ・ケアがきちりできた上で、その専門があるという形が大切なのです。そのことは大学で教えるのが難しいので、当院からの規模の病院がそれを伝えていけたらいいのではないかと思っています」

医師の高齢化という問題も顕著化しつつある。きつい外科や産科、小児科などは若い人からは選ばれにくく、高齢の医師が増えてきている。「若い人たちに魅力的だと思ってもらい、定着してもらうためにも、自分ができることをやらなければいけないと思っています」

がんに関する2つの日本一に 関わる事ができた

大学を卒業して以来、ずっとがんに関わり続けていた服部院長。2016年の「がん登録等の推進に関する法律」の施行前、福井県はがん登録精度で30年間日本一を続けてきた。院長は大学卒業と同時に関わり、その30年を見続け、博士論文のテーマにもしている。また福井県立病院に在籍中、2010年からは平能康充医師(現在は埼玉医

科大学教授)と二人で、発表されて間もなかった単孔式腹腔鏡手術を大腸がん患者に先進的に行い、6年間で約900症例という、当時日本トップの症例数を施行。難度の高い手術を安全に行っている点が国内外で高く評価された。

さらになんに関しても院長が力を入れたと考えているのが「がん教育」だ。できるだけ早いうちに正しい知識を教育すべきと、文部科学省が推進するもので、福井県でもガイドラインができている。院長は、直接学校に赴き、ご自身が話をしたいと考えているが、それが実現できたのは4校だけ。手応えはあつたそうだが、「その次が続いていかない」と残念がる。それでも、がん教育は絶対にすべきだという強い信念があり、「ライフワークにして、これからも機会を探していきたい」と話す。

人を思い、想像しながら 診察することが信条

服部院長が診察する際、注力していることは「想像力を働かせること」だと言う。服装や喋り方、診察室に入ってくるスピード、付き添いの有無など、観察で見えてきたことから想像力を働

かせる。「そうすると、この人は帰しちゃいけないとか、この検査までやっておかないといけないとか、あとで後悔するかもしれないというのがわかるんです。そういうトレーニングをずっと自分の中でしてきましたので、わかるんですよ」

職員たちのポテンシャルの高さを実感している院長は、その見える化を考え、6月から急性期病床74床を出来高請求から包括評価制度(DPC)に変更した。これによってこの病院が全国の中でどのくらいの位置なのかわかるようになるそうだ。「自分たちがどれだけレベルの高いことをやっているのかを職員の皆さんに伝えて、モチベーションを上げています」

ウェルビーイングを 追求していく

これからは、どれだけ幸せと思えるかということが重視されるように、世の中は変わっていく。多疾患併存の高齢者の場合、若い人と同じガイドラインで決められた手術をすると、かえって寿命を縮めるというデータもあり、今までいいと思ってきたことが害だったと言う話も出てくる状況だ。病気は



完全に治せなくても、できるだけ家族と一緒に過ごすようにする。など、治療に対する考え方が変わってきていると言う。

「この人の場合、ウェルビーイング(well-being)は何かということを、一つ一つ考えていきたいと思っています。そうすれば、『あの病院は手術するだけ』ではなく、手術するしないも含めて、『次の段階へコネクトしてくれる』と想ってもらえるようになります。これがこれからの医療のありようなのだろうと考えていますし、そのニーズはどんどん増えていくでしょう。その時は100点満点の医療ではなくても、後で『これで良かった』と思ってもらえるような医療をやりたいです」

夜の帳が下りるころ、暗がりの中に浮かび上がる、明かりが灯った新病院は、まさしくぼんぼりを想起させる。風雪が強い日でも、中に入ればホッとできる。地域の人たちにとって、病気で困ったときは、あそこに行けばきっと守ってもらえると思われ、そんなぼんぼりのような存在であり続けるために、病院一丸になつての切磋琢磨の日々は続く。

福井県医療情報誌「neo」4号より 記事転用

News & Information 医心ニュース



1/30 (木)

ISHIN Seminar 2025 を開催しました

昨年、医療情報誌 医心「ISHIN」の通巻 100 号を節目に、日頃多大なるご支援・ご協力をいただいている方々をご招待し初開催した ISHIN Seminar。第 2 回目となる今回も、皆さまのご厚意を賜り、医療界のさらなる発展を趣旨とした交流の場を提供させていただきました。

金沢大学医薬保健研究域医学系 消化管外科学／乳腺外科学の稲木紀幸教授を講師にお招きしたセミナーと、その後の懇親会。2 部構成で行われた本会の時間が皆さまの今後のご発展ご活躍の一助となれば幸甚に存じます。また、当日は冷たく降りしきる風雪のなか、会場までお越しいただきまして誠にありがとうございました。



セミナーテーマ：医療機器開発と産学連携

講師：稲木 紀幸

金沢大学医薬保健研究域医学系
消化管外科学／乳腺外科学 教授



ご参加いただいた企業さま (五十音順)

- ・医療法人社団 博仁会 小池病院 ・医療法人社団 東野会 東野病院
- ・エア・ウォーター・リンク株式会社 ・株式会社クオンヘルスケア
- ・株式会社 DCP ソリューション ・株式会社ナカテック ・株式会社ひかりファーマ
- ・株式会社ファイネス ・株式会社北國銀行 ・株式会社ミタス ・株式会社 Radix
- ・協同組合 アドビジネスセンター ・スギメディカル株式会社
- ・セントラルメディカル株式会社 ・ダイワ通信株式会社 ・プロメディカル株式会社
- ・北陸総合警備保障株式会社 ・増江会計 ・丸文通商株式会社 ・明祥株式会社
- ・ワールドワイド株式会社

ISHIN

mission

家元で理想を超える家づくり



理想のライフスタイルに
合わせた完璧な住まい

私たちは、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、最適なデザインを提案します。家族の夢、趣味、日常の小さな瞬間までを考慮した、唯一無二の住まいを創り上げます。

人や環境にやさしい
高性能な家づくり

私たちの家は、地球環境に配慮した最新の技術を取り入れています。エネルギー効率の高い設計、再生可能エネルギーの活用、自然素材の選定など、持続可能な未来を見据えた家づくりを実現しています。

技術力の高い職人たちが
支える確かな品質

高い技術力を誇る熟練の職人たちが、細部にまでこだわりを持って施工します。長年の経験と確かな技術で、お客様の期待を超える住まいをお届けします。



お問合せ

詳細な情報やモデルハウスの見学をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

<https://kanzawaiemoto.jp>

076-255-1201



株式会社家元 石川県金沢市問屋町 1-27-1

【建設業】石川県知事許可(般-1)第 17091 号
【一級建築士事務所】建築設計事務所 意匠庵 / 石川県知事許可 第 13806 号
【宅地建物取引業】Find.r / 石川県知事 (1) 第 4223 号



美しい人になる
家元の家。

令和6年能登半島地震、豪雨災害において、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

また、被災地における復旧・復興活動などにご尽力されているすべての方々に深く敬意を表します。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 クオンヘルスケア

山岸建築設計事務所

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス



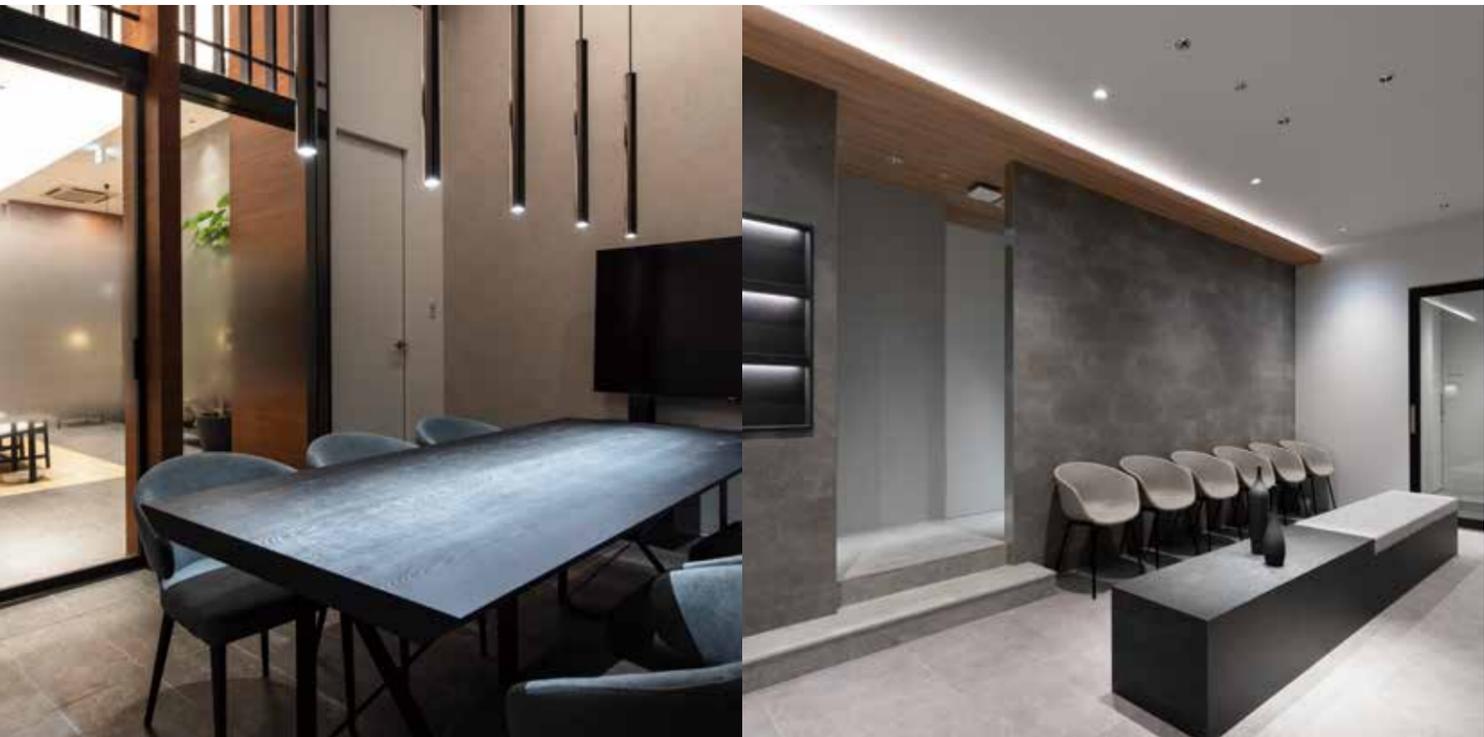
医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

- | | | |
|--|--|---|
| 金沢大学附属病院
金沢医科大学病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
石川県立こころの病院
加賀市医療センター
公立河北中央病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
公立つぎ病院
公立能登総合病院
公立羽咋病院
公立松任石川中央病院
国民健康保険 小松市民病院
市立輪島病院
珠洲市総合病院
町立富来病院 | 能美市立病院
石川県済生会金沢病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
金沢聖霊総合病院
金沢赤十字病院
独立行政法人国立病院機構 医王病院
独立行政法人国立病院機構 石川病院
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構 七尾病院
社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川
心臓血管センター金沢循環器病院
医療法人社団浅ノ川 千木病院
医療法人社団光仁会 木島病院
医療法人社団慈豊会 久藤総合病院 | 医療法人社団 下崎整形外科医院
医療法人社団橋会 整形外科米澤病院
医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
医療法人社団博友会 金沢西病院
医療法人社団藤聖会
金沢メディカルステーション ヴィーク
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
小松ソフィア病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
特定医療法人社団勝木会
やわたメディカルセンター
公益社団法人 石川勤労者医療協会
城北病院 |
|--|--|---|

『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 / DIRECT 建築設計事務所



富山県

- 富山大学附属病院
 富山県立中央病院
 富山市立富山市民病院
 あさひ総合病院
 射水市民病院
 かみいち総合病院
 黒部市民病院
 公立南砺中央病院
 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
 高岡市民病院
 南砺市民病院
 公立学校共済組合 北陸中央病院
 独立行政法人国立病院機構 富山病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
 独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
 富山県済生会高岡病院
 富山県済生会富山病院
 富山赤十字病院
 医療法人財団恵仁会 藤木病院
 医療法人社団秋桜 丸川病院
 医療法人社団尽誠会 野村病院
 医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
 医療法人財団五省会 西能病院
 富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
 富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

- 福井大学医学部附属病院
 福井県立病院
 市立敦賀病院
 独立行政法人国立病院機構 あわら病院
 独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
 福井県済生会病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
 福井赤十字病院
 医療法人福井心臓血圧センター
 福井循環器病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・
北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計

(2024年
6月末現在)
1,760店舗

関西 581店

北陸・信州 84店

北海道・東北 3店

関東 502店

中部 590店

■ 全社
売上高 **7,444.8** 億円 +11.5%
(年間計) 前期比

■ 調剤
売上高 **1,587.8** 億円 +11.5%
(年間計) 前期比

■ 処方箋
枚数 **1,475.9** 万枚 +14.3%
(年間計) 前期比

■ 訪問調剤
対応店舗数 **601** 店舗 +6.4%
(年間計) 前期比

■ 訪問調剤
患者数 **189,109** 名 +7.4%
(年間計) 前期比

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索